

# 強者の戦略

論述世界史〔2018年 京都大学 第3問〕

こんにちは。研伸館の世界史の北林です。問題にチャレンジしてみてどうだったでしょうか。今回の問題は、よく知っているテーマなのに文章にしにくい、と感じた人が多かったかも知れません。ただ、類題は多く、受験までの間に似たようなテーマを目にすることもあつたでしょう。

## <時代背景を確認>

十字軍はあまりに有名な出来事なので、そんなの知ってる、とつい勢いよく書いてしまうかも知れません。でもこういうときこそ問題をしっかり読んでください。知っていることをただ書けばいいのではありませんので、問われていることに対して正確に書いていかななくてはなりませんから気をつけてください。

さて、背景を確認しましょう。**十字軍の時代(1096～1270年/アッコン陥落を入れるならば1291年)**の背景からいきましょう。

11世紀ごろになると、**西欧は気候も温暖になり、外部勢力の侵入も収まって社会は安定してきました。農業生産力があがり余剰生産物があられ、人口も増加します。**また森や荒地の開墾が進み、いわゆる**大開墾時代**を迎えます。また、余剰生産物の取引から商業交易の拠点として都市が興隆します。いわゆる**商業ルネサンス**という時代を迎えます。

11世紀から本格化する**レコンキスタ**、12世紀ごろから始まる**東方植民**、そして十字軍。西欧世界は外へ拡大していきます。他に宗教熱の高まりから**聖地巡礼が盛ん**になったり、**両シチリア王国**も12世紀です。

こうして、内にこもって萎縮していた時代から、成長し膨張する時代へと転換していくことになりま

す。

では問題を一つ一つ丁寧に見ていきましょう。

## <問われていることを確認>

問われていることは大きくわけて二つ

- ・その間、その性格はどのように変化したのか
- ・十字軍運動は中世ヨーロッパの政治・宗教・経済にどのような影響を及ぼしたのか

この2点です。では一つ一つ確認していきましょう。

- 1 その間(約200年)、その(十字軍)の性格はどう変化したのか。

ご存じの通り、十字軍は、**セルジューク朝がキリスト教の聖地であるイェルサレムを征服し、ビザンツ帝国に圧力をかけて小アジアまで進出した**ことがきっかけでした。ビザンツ帝国は**プロノイア制**で独自の軍事組織をつくりつつ、西ヨーロッパに援軍を求めます。**教皇ウルバヌス2世**は当時行われていた**レコンキスタ**が聖戦と位置づけられていたことに倣い、**クレルモン宗教会議**を開いて、聖地奪回の聖戦を起こすことを決議しました。当時は教皇の言葉は神の言葉とみなされており、十字軍は神の軍隊でした。この教皇の呼びかけに名声や魂の救済を求める諸侯や騎士が応え、第1回十字軍は**聖地奪回**を前面に押し出した軍隊でした。しかし、十字軍に参加した人達には様々な思惑がありました。教皇は東西教会の統一をもくろみ、国王や諸侯・騎士・商人達は経済的な利益を求め、民衆は十字軍への参加は魂の救済を得るためとし、様々な欲望や野心がみられました。第1回十字軍の成功以降は、建前は聖戦とするものの、世俗的な動機が随所にみられ、次第に大義を失っていきます。特に**第4回十字軍**の動向は、宗教的理由が関係なくなっているのがよくわかります。

今回は変化を問われています。前→後、が分かるように書いていきましょう。

# 強者の戦略

2 十字軍運動は中世ヨーロッパの政治・宗教・経済にどのような影響を及ぼしたのか  
3つにわけて確認しましょう。

## ・政治への影響

十字軍は結果的には**失敗に終わりました**。十字軍には多くの諸侯・騎士が参加しましたが、**疲弊して没落するものも少なくなく、その領地を没収した国王が権力を強めていくこととなります**。王権強化は必ずかきましよう。

十字軍以降、荘園制も変化して、自立する農民も増えて、貨幣経済も浸透し、諸侯が力をなくしていくことになるのも。皆さんもよく知っていますね。

## ・宗教への影響

十字軍は宗教的情熱が背景にある軍隊ですが、十字軍を提唱したのはローマ教皇ですね。十字軍は聖地を奪回しエルサレム王国を建てるなど、はじめは成功を収めています。**教皇の権威は高まり、13世紀前半のインノケンティウス3世の時には絶頂期を迎えました**。イギリスのジョン王を破門したり、フランスのフィリップ2世を屈服させたり、イギリス、フランス、さらにはドイツの国政にも影響を与えるほどの大きな権威となりました。ところが十字軍は失敗に終わりました。神の軍隊である十字軍が失敗に終わる、ということは**教皇の権威は後退します**。つい十字軍後ばかり注目してしまいますが、十字軍の最中に権威が高まっていることも忘れないでください。

また十字軍後にはアナーニ事件や“教皇のバビロン捕囚”など、王権に振り回されて、教皇は権威を失っていくこととなります**「開始当初は民衆からの熱狂的支持を受け、13世紀に最盛期を迎えた教皇権は、運動の失敗で衰えた。」**という内容が書けそうですね。

## ・経済への影響

当時さかんだった聖地巡礼に加えて**大規模な人・物資の移動を生み出しました**。また、海上輸送を担うイタリアの海港都市がこれを機に多大な収益をあげ、海軍力も増強しました。ピサとジェノヴァは西地中海で、ヴェネツィアが東地中海で活躍し、地中海の軍事上・通商上の制海権はイタリア諸都市が握りつつありました。**イタリア諸都市の商業権益拡大のための商業戦争といった側面もあります**。運搬を担当したヴェネツィアがエジプト攻撃をコンスタンティノープル攻撃に変えた第4回十字軍がわかりやすいですね。ヴェネツィア商人は当時、コンスタンティノープルの交易から排除されていたため、商業圏の回復を望んでいました。**「輸送を担ったイタリア諸都市によるアジアとの東方貿易が盛んとなり、ヨーロッパ内部でも商業と都市が発展した。」**ということが書けるでしょう。

では、以上をヒントに解答文を作成してみましょう。

### 【解答例】

十字軍運動は、7世紀以降イスラームの支配下にあった聖地エルサレム回復のための聖戦として始まった。しかし、第1回十字軍の成功以後、次第に領土・戦利品を目標とする諸侯・騎士の思惑が色濃くなり、第4回十字軍において、商業圏の拡大を目論むヴェネツィア商人の主導でコンスタンティノープルが占領されると、その大義を失った。この運動で多くの諸侯・騎士が没落し、その領地を没収した国王が権力を強めた。運動開始当初は民衆からの熱狂的支持を受け、13世紀に最盛期を迎えた教皇権は、運動の失敗で衰えた。また十字軍の輸送を担ったイタリア諸都市によるアジアとの東方貿易が盛んとなり、ヨーロッパ内部でも商業と都市が発展した。(299字)

# 強者の戦略

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、気になるところがあれば、その際は遠慮なく質問してください。添削を希望される方も遠慮なくおっしゃってください。

ではまた次回、お会いしましょう。

北林久忠